

和白干潟を守る会 2014年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2014年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」を発足して、今年4月で27年が経ちます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会やクリーン作戦など、さまざまな活動を絶え間なく続けてきました。

2013年12月に和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により「プロジェクト未来遺産」に登録され、2014年2月には登録証伝達式がありました。その折に新井章吾さんのご指導で和白干潟の海底湧水で塩を作り、参加者にプレゼントしました。「未来遺産登録」も、「海底湧水の存在」も、大変嬉しいことでした。4月には日本湿地ネットワーク総会とシンポジウムが広島市で開催され、守る会からも参加しました。11月の「第26回和白干潟まつり」では「ラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、県知事に届けました。前年度に続き3月から11月まで、ラムサール条約の街頭署名活動に取り組みました。「和白干潟のラムサール条約登録を求める署名」の第2次集計分は、2015年1月に福岡市長と環境大臣へ提出しました。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。まだ国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けていますが、2014年は唐原川の清掃活動の他、唐原川の植物や生きもの観察会も実施しました。活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加が大きく増えました。新たに日本ユネスコ協会連盟の仲立ちの企業が参加されました。企業はクリック募金を企画したり、大学は特別講義を企画したり、多彩に協力していただきました。2014年度もすばらしい活動ができたと思います。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」、「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の機運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

2014年4月、観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2014年度中(1月～12月)の和白干潟自然観察会は、年間12回で、延べ1,001名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園2回(香椎保育所、ちどり保育園)96名、小学校5回(和白小学校、西戸崎小学校、香椎東小学校)577名、中学校1回(筑陽学園中学)75名、高校1回(柏陵高校)45名、短大1回(精華女子短大)26名、合計10回、819名あった。和白小学校では、2月末に毎年まとめの発表会があり、守る会のガイドなど参加している。その他に、「MS&ADグループ」、「チームエナセーブ未来プロジェクト」などの和白干潟の観察会が2回、延べ182名あった。また、和白干潟保全の

つどいとして「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、67名の参加があった。

ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、新規入会者の中からガイドやカメラ係を引き受ける者が現れ、若干の進展が見られた。

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、6月29日に第17期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、21名が参加した。

九州環境管理協会の藤井暁彦氏を講師に招き、「干潟の生きものの役割を学ぼう」をテーマに学習。ウミナナによる海水の浄化実験や干潟の底生動物のサンプル採集から干潟全体の生物量を推定する方法などを学んだ。これを機に、観察会でのアサリの海水浄化実験に、ウミナナの浄化実験も加えて行うこととした。

3. 和白干潟クリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

年度	活動項目	回数	延べ人数 (人)	ゴミの量 (袋)	
2013	クリーン作戦	12	833	1,826	
	その他	7	482	263	
	合計	19	1,315	2,089	
2014	クリーン作戦	12	802	1,359	
	その他	9	668	780	
	合計	21	1,470	2,139	
増加割合(%)			110.5%	111.8%	102.4%

年間12回、延べ802名が参加し、1359袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会、干潟まつりや臨時の清掃などに延べ668名

が参加し、780袋を回収した。全体では、延べ1470名が参加し、2139袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、個人、会場整備、まつり、合わせて延べ184名だった。粗大ゴミは、寝具、自転車、タイヤ、浮き、家具類、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、今までの企業の他に新しく参加企業(ダンロップ)や学生の参加が増えたために全体の人数が1割強増えた。回収ゴミの量が増えたのは、アオサの状況は昨年と余り変わらなかったが、人数が増えた分多くなったと思われる。

総括すると、参加総人数は昨年より約1割増え、ゴミの量は余り変わらなかった。(上表参照)

- ・4月26日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・6月8日(日)は「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・9月27日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。

4. 第26回和白干潟まつり

和白干潟まつりは多くの人に和白干潟の自然を直接見て、体験して干潟の重要性和守っていくことの大切さを認識してもらう目的で、グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部と共催している。

第26回は、11月23日(日)に開催、穏やかな晴天に恵まれたが、約300名の参加者となった。今回はグリーンコープ生協の大きな祭りが前日に開催されたため、機材の提供や運搬は可能だったが、出店などがなかった。バザー・模擬店では新規出店がなく、行事が重なって常連の出店辞退もあり、15店となった。参加者、出店者が少なかったこともあり、入場カンパ、売り上げなどは予想を下回った。和白干潟に近い地域のボーイスカウトが初めて団体参加し、野鳥観察など好評だったことから、今後、継続参加や広がりが期待される。バードウォッチング、植物観察、干潟の生き物観察、自然あそび(ネイチャーゲームを改称)ステージ企画は参加者も交えたコーラスなど好評だった。写真展は写真を新規に入れ替え、掲示方法や場所も変更し、たくさんの人に見てもらえて、好評だった。「ラムサール登録を目指す署名」コーナーも昨年に続き取り組んだ。今年もラムサール宣言を採択し、環境省、福岡市、福岡県に送付した。

出店者との反省会では、子どもの参加が課題で、みんなでこれからも働きかけることとした。生協がかかわれない中、出店者も設営、役割分担など協力していただいた。今後も和白干潟まつりを続けていくことを確認した。

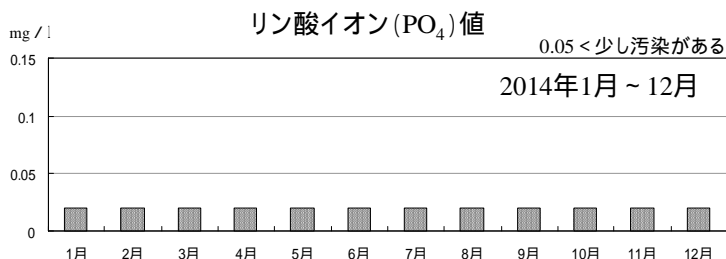
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

5. 調査

調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。

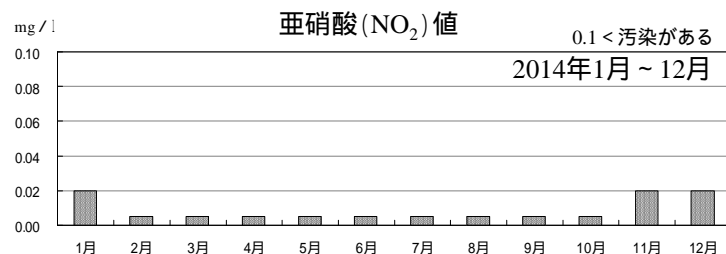
(1) 水質調査 (毎月1回実施)

リン酸イオン値(PO₄)が0.05を超えると少し汚染がある状態である。2014年度は年間を通して0.02以下であった。(きれいな水)

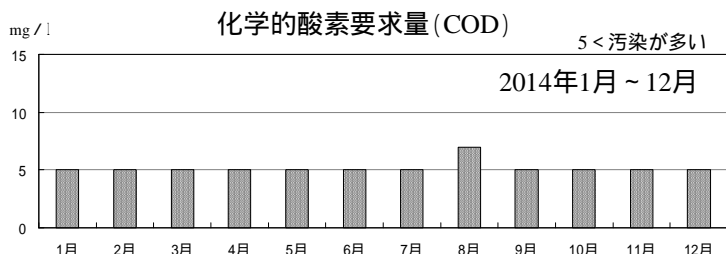


亜硝酸値(NO₂)は海水の汚染度を表す。2014年度の亜硝酸値は、年間をとおして0.02を越えることがなかった。

少し汚染がある状態である。

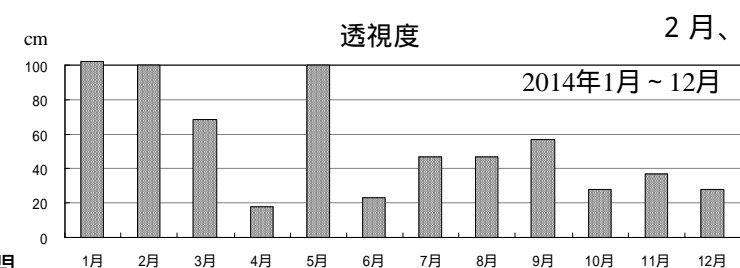


化学的酸素要求量(COD)は毎年夏場には悪化する傾向にある。2014年度は8月が5を上回ったが夏場でも10に至ることはなかった。



透視度については、通常30cm位であるが、1月、5月は100cmとよい状態だった。

水質調査の結果ではリン酸イオン値や亜硝酸値、化学的酸素要求量などに特に異常値が見られるわけではないが、和白海域におけるアオサの大量発生は続いている。和白干潟に流入する唐原川、和白川に問題があるのか、沖合の海水に問題があるのかを見極めるために、次年度からは唐原川、和白川からの流入水についても水質検査を行いたい。



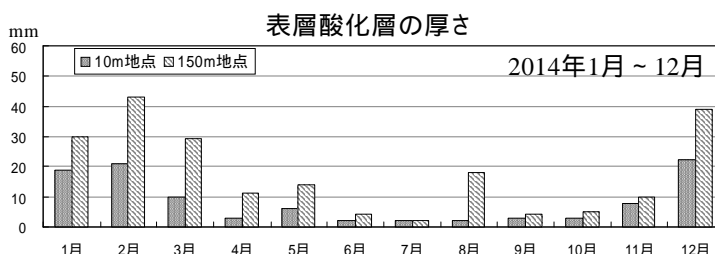
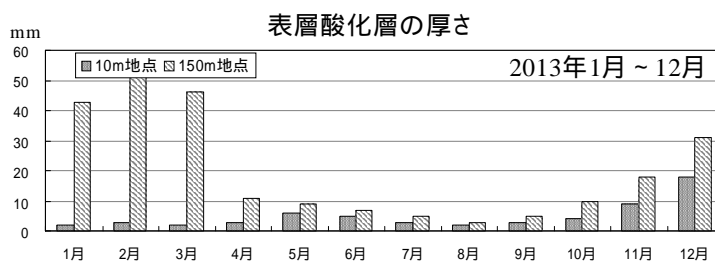
(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、33種類のゴミが回収された。最も多かったのは、プラスチック類の中の、食品の包装・袋だった。この調査には、毎年九州産業大学の宗像ゼミに協力していただいている。

(3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10㍍地点と150㍍沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

右のグラフは、2013年度と2014年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが、2012年秋のアオサの堆積で2013年の3月まで、浜辺側が極端にうすくなっていたが、2014年は少し改善している。

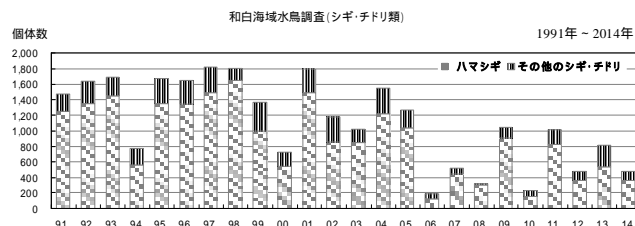
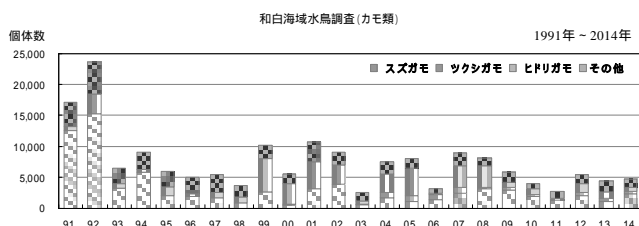


(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局) 2014年1月12日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数(和白海域水鳥調査)は、カモ類は昨年の4,407羽より少し増加したが、最多の1992年の23,719羽と比べて約5分の1の4,676羽に減少。シギ・チドリ類は昨年の814羽よりは増加したが、1990年代の約1,600羽から945羽に減少した。調査参加者は9名。



環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査(環境省・NPO法人バードリサーチ)

冬期：2013年12月、2014年1～2月 今津と博多湾東部各3回実施

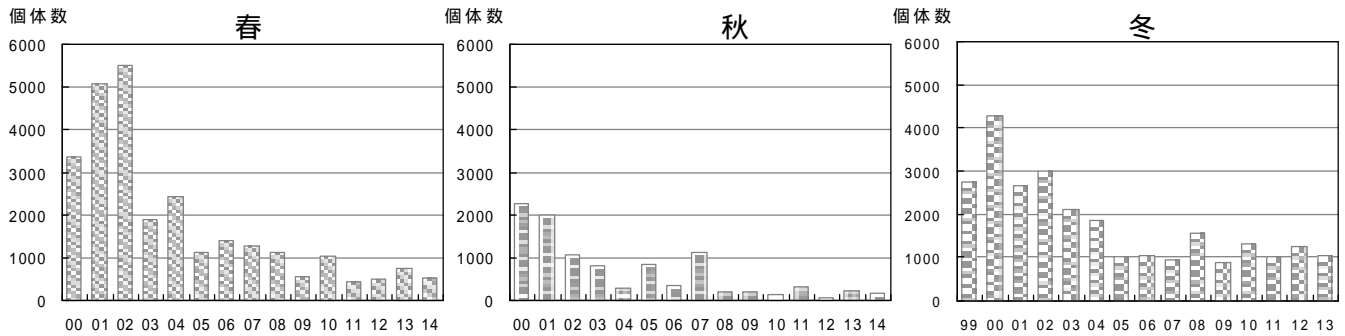
春期：2014年4月～5月 今津と博多湾東部各3回実施

秋期：2014年8月～9月 今津と博多湾東部各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2013年度冬期は2000年の4,300羽から1040羽に減少し(昨年1212羽)、2014年春期は2002年の5,509羽から513羽に減少(昨年873羽)。2014年秋期は2000年の2,271羽から143羽に減少した(昨年209羽)。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大15羽(昨年16羽)、ツクシガモ494羽(昨年536羽)、ズグロカモメ3羽(昨年2羽)をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(博多湾東部)

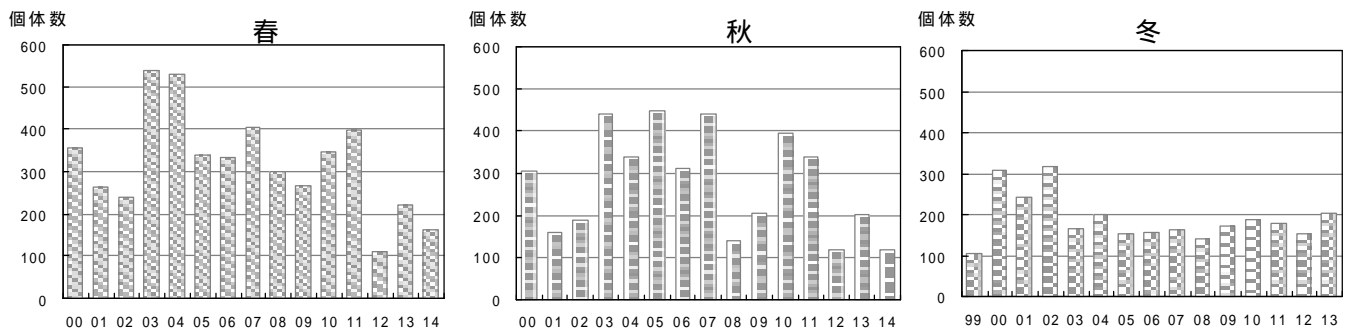
1991年～2014年



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2013年度冬期は2002年の319羽から204羽に減少し(昨年151羽)、2014年春期は2003年の538羽から162羽に減少(昨年219羽)、2014年秋期は2005年の450羽から117羽へ減少(昨年203羽)。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大20羽(昨年25羽)、ツクシガモ104羽(昨年92羽)、ズグロカモメ9羽(昨年10羽)をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津)

1991年～2014年



(博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津はやや減少か横ばい状態である。2014年の鳥類調査参加者は、毎回7名から16名、延べ89名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化などで減少している。調査協力者を求めている。

ミヤコドリは2014年9/26に2羽観察(初認) 9/27に3羽観察、9/29に4羽、10/17に7羽、10/30に8羽、11/15に9羽を観察した。(2013年は最大10羽観察)

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

6. ラムサール条約登録を目指して

「プロジェクト未来遺産」登録を積極的に生かし、ラムサール条約登録実現を求める署名活動を全国的に広げ、

行政への申し入れ、市民へのアピールなど積極的に取り組む。

「プロジェクト未来遺産」登録を積極的に生かす取り組みについて

- ・ 2月20日にプロジェクト未来遺産登録伝達式を未来遺産委員会主催、和白干潟を守る会が開催運営の主体となり、これまでの活動に支援、協力いただいている教育機関、団体、企業などの関係者にご案内し、東市民センターで開催された。委員の方々からは26年間の活動を評価し、今後、官民連携で干潟を存続し、新しい展開を期待したいとの言葉をいただいた。伝達式の様子は新聞紙上にも掲載され、新たな企業団体のクリーン作戦参加や寄付、地域老人会からの寄付などもいただき、新たな会員も増えた。日本ユネスコ協会連盟の活動応援金もいただき、記念としてその一部で簡易テント1張りを購入し、クリーン作戦、干潟まつりなどで活用している。
- ・ 4月26日開催の「2014干潟・湿地を守る日」に、235名の参加者を前に、プロジェクト未来遺産登録に応えるべく活動することを宣言した。
- ・ 11月23日の第26回和白干潟まつりにおいて、「ラムサール宣言」を参加者一同で採択し、福岡市、福岡県、環境省に届けた。

ラムサール条約登録を目指す署名活動について

12月まで全国的に署名のよびかけを行い、街頭署名活動は3月から11月まで毎月1回、香椎の街中とJR福工大前駅周辺を交互に、9回で延べ45名が参加し、計613名分の署名を集めた。

和白干潟まつりでも署名コーナーを設け、呼びかけた。全国からの協力も含め、最終的に福岡市長あて

2,995名分となり、第1次集計とあわせ、総計で9,723名分となった。環境大臣宛の署名は2,940名分、第1次集計と合わせ、総計9,558名分となり、いずれも目標1万人を目指したが、わずかながら達成できなかった。福岡市に1月29日提出、環境省には前日郵送した。全国の皆様からご協力いただいたことに感謝する。

その他

2013年の参院選挙で当選した、和白干潟を守る会に協力すると回答した国会議員が、署名協力、干潟の清掃活動、干潟まつりへ参加するなど理解協力が進んだ。

7. 和白干潟の保全とラムサール登録を目指すことを明記していない福岡市の「生物多様性ふくおか戦略」の見直しに向けて働きかける。

福岡市の「生物多様性ふくおか戦略」をベースにした「第3次福岡市環境基本計画」の見直しが7月発表された。市民意見募集に先立つ福岡市主催の「ふくおか環境未来カフェ」に2名が参加し、意見を述べた。意見募集には、守る会として素案の問題点について学習会を行い、和白干潟の重要性とラムサール条約登録への取り組みを加えることなど、6名が8月に意見を出した。一部文言の修正見直しがされたものの、和白干潟の保全、ラムサール条約登録の意見は採用されなかった。

福岡市環境局の「福岡市生物多様性推進」アンケートに協力。

8. 「山・川・海の流域会議」を活動の柱の一つに位置づけ、思いを同じくする他団体と連携して活動に取り組む。

「山・川・海の流域会議」は2ヶ月に1回定例会を開き、1月には九州産業大学内田先生の「唐原川流域の植物についての講演会」を開催、会員に新たに九州産業大学内田ゼミが加入した。5月10日「唐原川お掃除し隊」第2回目を開催120名が参加、和白干潟を守る会は下流域を重点的に清掃した。11月8日には内田ゼミの学生の主導で「唐原川の植物と生き物観察会」を開催した。

9. 和白干潟の環境保全を目指して

(1) クリーン作戦の取り組み

引き続きキヤノンの社会貢献キャンペーンやトヨタの「アクア ソーシャル フェス」の新聞広告、キヤノンクリック募金の対象に選ばれたほか、未来遺産登録などで、和白干潟の知名度が上がり、企業、高校生、大学生、民間ボランティアグループ等の団体参加が増え、前年度より10%の参加者増となっている。大学からの要請により、希望する大学生には「ボランティア参加証」を発行し、ほぼ毎月留学生などの参加がある。今年度から、福岡市和白水処理センター管理委託の環衛サービス KK が団体会員加入、クリーン作戦など毎月参加。今年もアオサが昨年度より早く発生したが、企業、高校生、大学生が参加したクリーン作戦では若い方々や高校生などの力が大いに役立った。また、MS&AD など独自の日程でクリーン作戦と組み合わせ自然観察会などの企画が継続、日本ユネスコ協会連盟の紹介による新たな企業の団体参加も始まった。それに伴い、同時期に独自企画のクリーン作戦と自然観察会の申し込みが重なり、日程調整が今後の課題となった。

(2) 福岡市等の施策に対する取り組み、連携

福岡市長選挙において候補者への公開アンケート実施

1 月の福岡市長選挙に立候補した 6 人に対し、和白干潟のラムサール条約登録に関する公開アンケートを実施、ホームページに掲載した。6 人中 5 人が回答、積極的な回答は 2 名だったが、ラムサール登録に消極的な現市長が当選、残念な結果に終わった。

「エコパークゾーン水域利用連絡会議」

2 月 26 日の定例会に出席、アサリの業者乱獲問題について提起したところ、事務局から福岡市農林水産局、水産振興課に上げるとの回答を得た。8 月 30 日は、海上安全指導パトロールに 1 名が参加し、指導の重要さと難しさを実感した。

「和白干潟保全のつどい」

毎月 1 回の定例会に担当の 2 ~ 4 人が参加、活動報告や意見交換、つどいとしての「バードウォッチングイン和白干潟」「和白干潟の生き物やハマボウを見る会」「アオサのお掃除大作戦 2014」などのイベントを共催した。「アオサのお掃除大作戦」については 9 月から 10 月までの 3 回実施し、和白干潟まつりのパネル展示にも参加した。雁ノ巣海岸の護岸工事に際して、つどいの場で海浜公園側から事前説明を聞き、生き物への配慮を求めた。WF が呼びかけて生き物引越し作戦を業者も参加して実施、環境配慮の公共工事の良い事例と、新聞や官公庁機関紙で紹介された。官民での工事着手前の意見交換の大切さを内外に示すものとなった。

「ラブアースクリーンアップ」

6 月 8 日、和白干潟では和白干潟を守る会が担当。福工大付属城東高校生はじめ企業、一般など 91 名が参加、ゴミは 52 袋回収した。

(3) その他

海底湧水での塩づくり

2 月 20 日の日本ユネスコ協会未来遺産登録伝達式に先立ち、2 月 9 日新井章吾さんの指導により、初めて和白干潟の海底湧水で塩づくりを実施、出席者に進呈した。海底湧水の存在を内外にアピールし、和白干潟の環境の重要性をさらに認識してもらえる良い機会となった。また、湧水ビデオ DVD 作成し、学校などへの貸し出しを可能にした。

「にほんの里 100 選」記念コンサート

和白干潟は2009年「にほんの里100選」の一つに選ばれたが、100選に選ばれた各地を巡り記念コンサートが企画されており、2月25日、和白小学校でコンサートが開かれた。守る会も招待され、9名が参加し、小学生や地域の方々とともにテノール歌手の独唱や、津波被災の松ノ木で作られたバイオリン演奏などを楽しんだ。演奏会終了後、出演者など関係者を和白干潟に案内した。

「和白水処理センター」と「海水淡水化施設（まみずピア）」見学

5月21日、博多湾の水質に大きくかかわる和白干潟に近い下水処理場と海水淡水化施設の見学会を企画、実施した。守る会のメンバー11名が参加し、いずれの施設も丁寧な対応で、適切に処理されていることが理解できた。

「ふくおか生きもの見つけ隊」の調査に協力

6月～9月の調査期間に、福岡県環境部の呼びかけに応じて、守る会として参加し、6名が調査報告書を提出した。

日本自然保護協会の自然調べ2014「赤とんぼさがし」に協力した。

パタゴニア福岡店主催「BANFF マウンテンフィルムフェスティバル」において守る会ブース出店と、活動紹介、署名への協力呼びかけを行った。

10. 広報の強化について

(1) 和白干潟通信・リーフレット類

和白干潟通信は1・4・7・10月に計4回、110号は4700部、109、111、112号は5000部発行した。干潟通信は一部を（公財）イオン環境財団、プロジェクト未来遺産「レクサス特別賞」の助成を受けてロータリー印刷（株）で作成した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟の地域家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者など。発送作業はみんなで行っている。配布ボランティアの入れ替わりもあり、通信手配り担当表など改訂した。

和白干潟通信、リーフレット類は東区内公民館、臨海リサイクルプラザ、郵便局、周辺大学、パタゴニア福岡店、亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、薬局、画材店などに置いてもらっている。

「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターは、東区役所、東市民センター、コミセンわじろ、公民館、郵便局、ホームセンターほか周辺大学（福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学）にも掲示を依頼している。

(2) ホームページ

4名の分担で、編集している。活動報告をブログに随時掲載、年間を通じ、守る会の対外活動、行事予定や和白干潟の生き物などに関する情報を随時、写真も豊富に更新し発信している。11月の福岡市長選では候補者への公開アンケート結果を掲載した。ホームページの引越しを12月16日実施。新しいアドレスは、<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

(3) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加して7年目となった。イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するため毎月11日に買い物したときの黄色いレシートを団体のボックスに投じると、その1%相当額のカードがイオンから団体に寄贈されるという仕組みである。2014年度は、4月から2015年2月まで、イオン香椎浜店で黄色いレシートの投函呼びかけを実施した。毎月3～7人が参加しており、延べ51人が参加した。呼びかけの時、たすきや守る会のラムサールキャンペンブルゾン、ベストを着用し、干潟通信とリーフレット、和白干潟まつりのチラシ等を渡してい

る。4月にはイオン香椎浜店で2013年度分の贈呈式があり、ギフト券をいただいた。

1.1 . 講演活動

2月23日第10回「九州環境市民フォーラム in 福岡・新宮」の分科会において山本代表が和白干潟についての講演とコーディネーターをつとめた。この場で、「山・川・海の流域会議」を紹介した。

9月13日西南大学で開催された「日本科学者会議シンポジウム分科会」において山本代表が和白干潟のラムサール登録を目指して、の講演を行った。

10月11日九州産業大学宗像ゼミの特別講義で、昨年につき山本代表が和白干潟の自然と環境保全活動について講演を行った。

10月16日香住丘小学校5年生と先生対象に山本代表が和白干潟についての講演を行った。

1.2 . 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に活動予定や鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・未来遺産登録証伝達式についてマスコミにプレスリリース、取材を受け、各紙に掲載された。
- ・(財)日本自然保護協会(NACS-J)に年間スケジュール表送付、「自然保護」誌に「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」、「ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の掲載を依頼した。
- ・自然関係4誌に、「和白干潟自然観察ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の案内掲載を依頼した。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の息吹」(レストラン花もも5/7~5/31)、「山のスケッチ」(北九州銀行12/1~12/30)を開催し、パンフレットや通信を配布した。きりえ展は新聞社の取材もあり、記事として掲載された。
- ・ガイド講習会のチラシとポスターを作成、東市民センター、コミセン和白に掲示依頼した。
- ・JAWAN通信に山本代表が原稿執筆した。
- ・市長選公開アンケート結果のHPについて新聞社に情報提供した。
- ・第26回和白干潟まつりについてマスコミへお知らせし、3社が取材、放映した。
- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギの飛来について新聞各社に情報提供し、新聞に掲載された。

1.3 . 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・MS&ADのラムサールサポーターのHPに写真と記事で協力した。
- ・NHKTV番組でのクロツラヘラサギの記録についての情報提供した。
- ・「OCEAN NEWSLETEER」に寄稿。英訳もつけた。
- ・キヤノンHPのための和白干潟の写真と原稿を提供した。
- ・RKBラジオの取材を和白干潟で受ける。
- ・西日本新聞より博多湾についての取材を受け、掲載された。

1.4 . 対外団体との交流活動、協力・参加活動

(1)和白海岸定例探鳥会 毎月1回日本野鳥の会福岡支部に協力した。

(2)JAWAN・JEANとの連携

- ・JAWAN「干潟を守る日2014」参加：4月のクリーン作戦と併せて実施。2014年宣言を出した。
- ・JAWAN総会：広島市で開催され、山本代表が出席した。昨年につき、山本代表が運営委員に就任。和白干潟の現状報告を山本代表が行った。
- ・JEAN「国際ビーチクリーンアップ(春・秋)」に参加した。

(3)グリーンコープ生協との連携

第26回和白干潟まつりを共催したものの、生協の出店がなかった。今後とも連携を継続していくことは確認した。

(4)福岡市ボランティア交流センター「あすみん」との連携

5月「ボランティア入門講座」参加。6月福岡工業大学で開催された「あすみん学生ボランティアミーティング」に2名が出席し、守る会の活動への参加を促し、1名がクリーン作戦などに参加したが継続できていない。「あすみん」のメールマガジンで、クリーン作戦のボランティア募集を度々掲載いただいた。

(5)その他の団体、個人との交流と協力

- ・日本野鳥の会埼玉会員29名の和白干潟に案内した。
- ・クロツラヘラサギデータに関してウェットランドフォーラムに協力した。
- ・東日本大震災で壊滅的被害を受けた「蒲生を守る会」と交流を継続。干潟まつりで蒲生干潟の現在の状況についてパネル展示をした。ラムサール署名活動においても多数のご協力をいただいた。8月、熊谷氏が来訪、和白干潟を案内した。蒲生干潟を守る署名活動が始まり、和白干潟を守る会も協力している。
- ・慶応義塾大学生の卒論テーマの和白干潟と人工島についての質問に協力した。

15. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1)定例会議・総会(毎月第4土曜日)

原則第4土曜日に、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。2月は「総会」を開催し、2月は同日に臨時定例会議を開催した。出席者は各回13～19名。平均15名出席し、総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は定例会議で検討し、決定した。事務局会議を必要に応じて開催した。

(2)その他

2月の「未来遺産登録証伝達式」には、来賓案内発送、式次第やメッセージを載せた「しおり」作成、「ミヤコドリ」合唱練習、設営など、役割を決め、総力を挙げて取り組んだ。

守る会メンバーの活動保険について、保障対象をクリーン作戦のみとしていた範囲を広げ、調査や観察会など活動全般に適用できる社協のボランティア活動保険に加入した。

望年会参加者 20名(12/26)・大掃除参加者 11名(12/27)

(3)助成

イオン環境財団から助成金をいただいた。

キャノンマーケティングJから助成金をいただいた。

(4)寄付

日本ユネスコ協会連盟より「活動応援金」、関連企業から「レクサス特別賞」の寄付をいただいた。

イオン九州(株)から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」によりギフト券を寄付いただいた。

キャノンマーケティングJから「ふるさとプロジェクト活動支援金(クリック募金)」、寄付つきドリンク自販機を通じた寄付をいただいた。

MS&ADグループから寄付をいただいた。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からWeb約款寄付をいただいた。

西日本新聞社から、トヨタグループとの「AQUA SOCIAL FES 2014」の取り組みで寄付をいただいた。

和白東レインボークラブ連合会より寄付をいただいた。

会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパを受けた。

(5)2014年度の新規会員

- ・個人 8名
- ・団体 2団体

(6)2014年度末の会員数(新規会員を含む)

- ・個人会員：250名
- ・団体会員：13団体

16.パンフレット類の在庫

(2015年1月28日現在)

2014年度末のパンフレット類の在庫数は、概略次の通り。

・「和白干潟を守る会」リーフレット	6,259
・和白干潟の自然案内(和文)	175 (今年度、増刷予定)
・和白干潟の自然案内(英文)	528
・環境教育シリーズ (環境教育プログラム)	4,387
・環境教育シリーズ (水鳥、底生動物、植物図鑑) (和文)	427(今年度、増刷予定)
・環境教育シリーズ (英文)	461
・環境教育シリーズ (韓文)	78
・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表	毎年印刷
・「和白干潟を守る会」封筒	5,300
・「ラムサール条約と和白干潟」	284
・「未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年のあゆみ」	46

17.その他

海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力(毎月1回)